

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点 個人権課題をテーマとして効果的に取り扱った実践事例

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

埼玉県秩父市

学校名

秩父市立原谷小学校

学校のURL

<http://www.chichibu-stm.ed.jp/~harayasho/>

2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】	第1学年	3学級	第2学年	3学級	第3学年	2学級
	第4学年	3学級	第5学年	3学級	第6学年	3学級
【特別支援学級】	1学級		【合計】	18学級		

児童生徒数

【全児童数】 589人（平成23年12月12日現在）
（内訳：1年生 101人、2年生 102人、3年生 81人、4年生 95人
5年生 90人、6年生 114人、特別支援学級 6人）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】

心豊かにたくましく生きる児童の育成
すすんで学ぶ子 思いやりのある子 体力のある子

【人権教育に関する目標】

人権の大切さを理解できる子の育成
いじめや差別に気付いて行動できる子の育成
自分のよさや友だちのよさを認められる子の育成

人権教育にかかる取組の全体概要

<人権教育の努力事項>

- ・一人一人を大切にし、子どもよさを尊重した指導に努める。
 - ・教科等における学習指導の工夫に努める。
 - ・地域との連携を図り、人権に関する正しい判断力と実践力を身に付ける。
- 計画的、系統的に行う人権教育において、人権課題の一つである「北朝鮮当局によって拉致された被害者等（以下「拉致問題」）」をテーマとして効果的に取り扱った実践事例である。人権教育年間指導計画の中で、6年生12月に実践する道徳の授業の中に位置付け、毎年実践することとした。

3. 特色ある実践事例の内容

(1) 取組の目的

子を思う親の心の痛みや叫びに共感させるとともに、拉致問題を理解させ、人権の大切さに気付かせる。

(2) 取組を始めたきっかけ

平成20年に、内閣官房拉致問題対策本部より全国の公立小・中学校、高等学校、特別支援学校に「北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ『めぐみ』」(以下「めぐみ」)が配布された。

人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]によれば、その他の人権課題の一つとして「拉致問題」が取り上げられていたが、小学校では具体的な取り扱いが難しかった。しかし、平成21年12月、埼玉県教育委員会より人権教育指導の手引～アニメ「めぐみ」の活用について～が教師用手引きとして各校に配布され、具体的な指導事例が示された。

これにより、教育課程への位置付けや展開の仕方が明確になり、学校での実践がスムーズに行えるようになった。

(3) 取組の内容

取組の主体・頻度

6年生道徳として、12月の道徳の一授業として行っている。6年生に位置付けたことにより、どの子も小学生のうち一度は「めぐみ」の視聴をすること、毎年実施することが可能となった。12月に行っているのは、人権週間があるとともに北朝鮮人権侵害問題啓発週間があり、ニュース等でも扱われる機会が増えることによる。

取組を実現するにあたっての課題及びそれに対して講じた工夫

- ・小学生としての発達段階、教育の中立性に配慮しながら、人権課題の一つとして拉致問題をとらえさせるようにするため、小学校最高学年である6年生の道徳に位置付け、子を思う親の心の痛みに共感させることから拉致問題を扱うようにした。
- ・視聴時間が25分間と授業時間の過半数となるため、「めぐみ」の概略等を示した上で視聴を行うようにした。また、埼玉県教育委員会人権教育課のホームページにアクセスし、小学生用ワークシートを用いて授業を実施した。
- ・上記二点を考慮の上、校長の行う道徳の授業として、クラス毎に実施することとした。

取組の概要

<学級毎に実施>

- ・視聴前に、家族の絆の大切さとそれを打ち破った行為として拉致問題が起こったことを知らせる。
- ・話合いの3つの柱

- a めぐみさんが突然いなくなった時の両親の気持ち
- b 街頭で救出を呼びかける両親の気持ち
- c たくさんのマスコミに取り上げられたことに対する両親の気持ち



視聴後の話合いと児童の主な反応

- a めぐみさんが突然いなくなった時の両親の気持ち
 - ・なぜいなくなるの？ めぐみ、どこに行っちゃったの？ お願いだから帰ってきて。
 - ・自分たちが何かしてしまったのか。など、自分たちを責めている。自分たちが悪かったのなら、ちゃんと直すから帰ってきてほしいという気持ち。
- b 街頭で救出を呼びかける両親の気持ち
 - ・めぐみを早く助けたくて必死な気持ち。
 - ・私たちの娘と一緒に助けてほしい。私たちに力をかしてほしい。
 - ・めぐみさんが拉致されたことを知って、いろんな人に呼びかけても相手にしてくれなくてつらかったと思う。
- c たくさんのマスコミに取り上げられたことに対する両親の気持ち
 - ・拉致という問題を全国の人に知ってほしい。そして、早く帰ってきてほしい。
 - ・みなさんも、めぐみが生きてると信じてくれて本当に心から感謝します。これからもあきらめずに娘をさがします。そして助けてみせます。
 - ・あきらめないでたくさんの人と協力して、生きてると信じて救出したい。
 - ・このような拉致問題は、二度と起こしてほしくない。他の人も絶対帰してほしい。



授業の終末において、「自分の家族が拉致されたら、どんな気持ちになるか考えてみよう。」として、家族は深い絆で結ばれていることを実感してほしいと思っていた。主な児童の反応は次のとおりであった。

- ・ 悲しい。たぶんショックで何もできないと思う。助けたい。自分を責めちゃうかもしれない。
- ・ 毎日悲しくて悲しくて、泣いているかもしれない。家族を失ってしまっていやだ。早く戻ってきてほしい。悲しい。不安。心配。心が痛い。
- ・ 横田さんのお父さんやお母さんのように、一生けんめい行動したり、呼びかけたりして、何としても助け出したい。
- ・ すごく悲しいし、いやだ。家族の絆がくずされる。
- ・ 悲しいし許せないけど、絶対に助けられるよう努力したいと思います。
- ・ 何としても助けたい。さがしてみつかるなら、いつまでもさがしてみせる。いろんな人に協力を求めて、絶対に助けてみせる。
- ・ 自分の家族が拉致されたら、めぐみさんの親と同じようなことをすると思います。死亡と言われても絶対信じません。あきらめないで、取り返したいです。

4. 実践事例の実績、実施による効果

(1) 取組による効果

- ・ 小学生にとって「拉致問題」について理解することは難しいが、DVDの視聴と話し合いにより、拉致問題への理解、子を思う親の心の痛みや叫びに共感する心情、人権の大切さに気付かせることができた。

(2) 取組の実施から得られた知見

- ・ 「めぐみ」は、全国の公立学校約4万校に配布されたDVDと聞く。せっかくの人権教育啓発資料を授業レベルで活用できるよう、埼玉県教育委員会作成の資料『人権教育指導の手引～アニメ「めぐみ」の活用について』『ワークシート』を用いた実践のさらなる広まりを期待したい。これらは、埼玉県教育委員会人権教育課のホームページからダウンロードして用いることができる。



指導の手引・ワークシートは埼玉県教育委員会人権教育課HPからダウンロードできます
<http://www.pref.saitama.lg.jp/site/megumi/>

5. 実践事例についての評価

- ・ 終末における児童の反応例からも伺えるように、ともすると親への反発が芽生えてくる時期でもある小学校6年生の児童の多くが、家族への絆を大切にしていこうとする気持ちが高まっている。
- ・ 「自分の家族が拉致されたら何としても助け出したい。」「いろんな人に協力を求めて助けるよう努力したい。」といった行動面での反応も多く見受けられ、どんなことをしてでも娘を救出したい。」という子を思う親の行動面まで含めた心情に迫ることができた。
- ・ 保護者には、PTA理事会などの機会に、アニメ「めぐみ」の視聴を通して、「拉致問題」への理解を深めるようにしている。今後、6年生の授業参観の際などに視聴と話し合い活動を行うようになれば、保護者を含めた「拉致問題」への理解が一層深まることが期待できる。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

秩父市立原谷小学校

北朝鮮当局による拉致問題等の個人権課題をテーマとして効果的に取り扱った事例である。

人権教育に対する従来の取組の成果及び課題をふまえた上で、北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ「めぐみ」や埼玉県教育委員会作成の手引き等を活用して新たな取組を行っている。

児童の発達の段階等をふまえて第6学年の道徳の授業での取組となっている。また、PTA理事会などでも拉致問題への理解を深めている。

内閣官房拉致問題対策本部の啓発アニメを教材として活用し北朝鮮人権侵害問題啓発週間に実践を行うなど、関係機関等が連携・協力して人権教育に取り組んでいる。